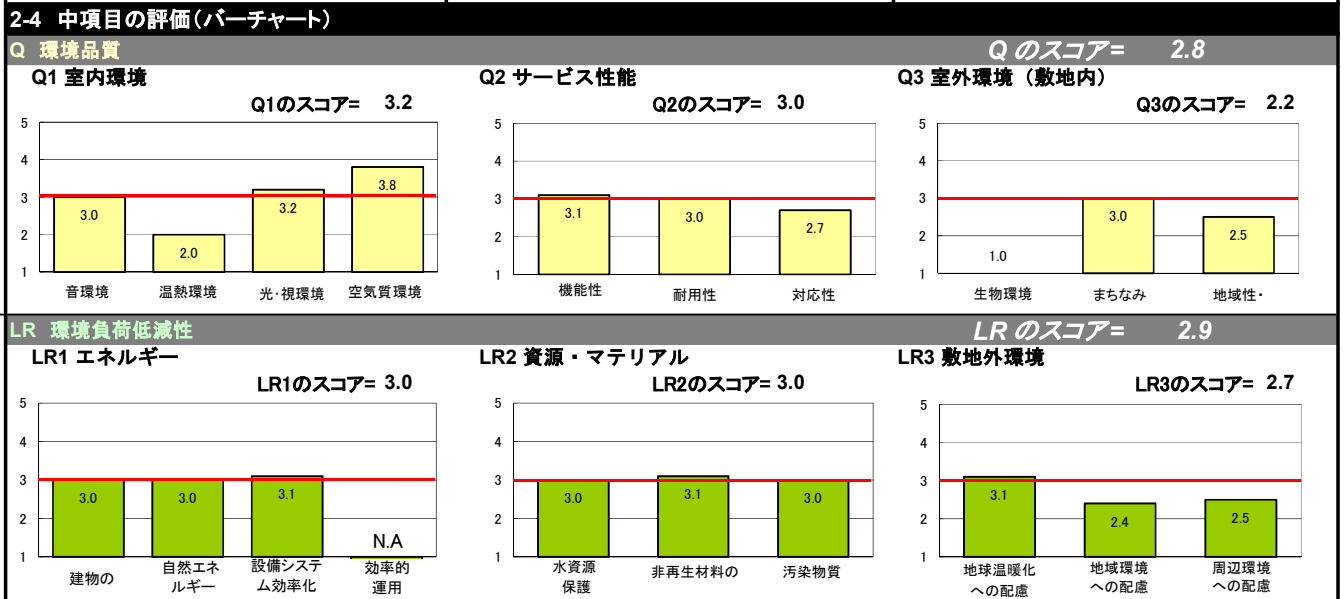
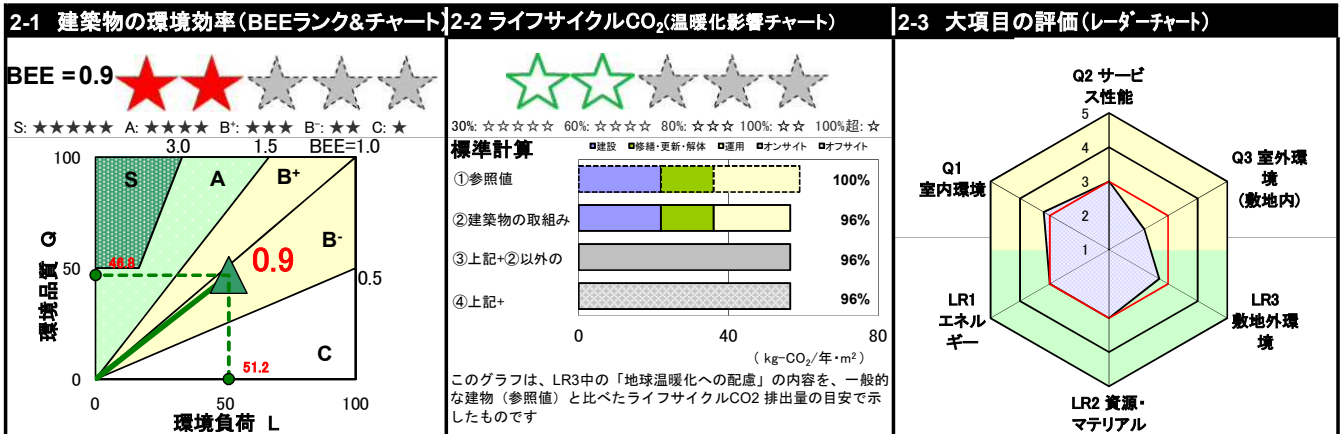


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14085

建築物名称	(仮称)ルーブル川崎都町A新築工事
建築主	株式会社TFDコーポレーション 代表取締役 船間 隆行
建築物の所在地	川崎市幸区都町65番1
設計者氏名、建築士事務所名	繁野 浩一 株式会社アクシス 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,064.15m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上11階
工事完了年月	平成28年9月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ルーブル川崎都町A 新築工事	階数	地上11F
建設地	川崎市幸区都町65番1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、防火地域、第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	78 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年9月 竣工	評価の実施日	2015年3月3日
敷地面積	603 m ²	作成者	繁野浩一
建築面積	247 m ²	確認日	2015年3月3日
延床面積	2,064 m ²	確認者	繁野浩一

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



CASBEE-川崎2011 (v.1.2)

(仮称)ループル川崎駅前A 新築工事

14085

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している。 周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。	1.8/4.3	2.1
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.6
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能	品確法性能表示(温熱)等級3相当とした。	1.6/2.2	3.5
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備			
3 3.2 3.2.2 屋光制御	庇、カーテンによりグレアを制御した。		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している。 空地率を40%以上確保した。	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	省エネルギー対策等級3相当とした。	3.0/5.0	3.0
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	フロン・ハロンの使用を極力抑えた。	2.9/4.6	3.1
2 非再生性資源の使用量削減			
3 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	耐用年数を考慮し、使用材料を選定した。	0.3/0.5	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.4/3.9	3.1
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	雨水の流出抑制対策をした。	0.2/0.4	3.0
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している。 空地率を40%以上確保した。	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	省エネルギー対策等級3相当とした。	3.0/5.0	3.0
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.5**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用	外構舗装をインターロッキングブロック仕上げとし、エコマーク商品を使用した。	0.8/1.4	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	省エネルギー対策等級3相当とした。	3.0/5.0	3.0
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				14085			
配慮項目	G	W	R	H	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									2.8
Q1 室内環境							0.40		3.2
1 音環境									3.0
1.1 騒音									
1 室内騒音レベル									
2 設備騒音対策									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									2.0
2.1 室温制御									
1 室温									
2 負荷変動・追従制御性									
3 外皮性能					W				
4 ゾーン別制御性									
5 温度・湿度制御									
6 個別制御									
7 時間外空調に対する配慮									
8 監視システム									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									3.2
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備					W				
3.2 グレア対策									
1 照明器具のグレア									
2 昼光制御					W				
3 映り込み対策									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									3.8
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
2 アスベスト対策									
3 ダニ・カビ等									
4 レジオネラ対策									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4 給気計画									
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御									

Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性									
2	高度情報通信設備対応									
3	バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性										
住戸の加重平均上、住居部の天井高2.5m以上を確保している。										
1	広さ感・景観									
2	リフレッシュスペース									
3	内装計画									
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計									
2	維持管理用機能の確保									
3	衛生管理業務									
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1	耐震性									
2	免震・制振性能									
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数		R							
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R							
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R							
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R							
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R							
6	主要設備機器の更新必要間隔		R							
2.4 信頼性										
1	空調・換気設備									
2	給排水・衛生設備									
3	電気設備									
4	機械・配管支持方法									
5	通信・情報設備									
3 対応性・更新性										
3.1 空間のゆとり										
1	階高のゆとり									
2	空間の形状・自由さ									
3.2 荷重のゆとり										
3.3 設備の更新性										
1	空調配管の更新性									
2	給排水管の更新性									
3	電気配線の更新性									
4	通信配線の更新性									
5	設備機器の更新性									
6	バックアップスペース									
Q3 室外環境(敷地内)										
1 生物環境の保全と創出				G	W		H			
2 まちなみ・景観への配慮				G						
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H			

LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.0
1 建物の熱負荷抑制	W		H	3.0	0.40	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用	W		H	3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用	W		H	3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化	W		H	3.1	0.40	-	-	3.1
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)				5.0		-	-	
集合住宅の評価				3.1		-	-	
4 効率的運用				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	W		H	3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	W		H	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護	W	R		3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減	W	R		2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R		3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R		3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	W	R		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R		2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R		4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68	-	-	
1 消火剤	W			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	W			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	W			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮	W			3.1	0.33	-	-	3.1
ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物と同等となるよう努めた。								
2 地域環境への配慮				2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			R	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			R	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			R	2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			R	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	1.00	-	-	
2 振動				-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制				1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				4.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	
適切な照度レベル・照度範囲となるよう設置の検討をし、周辺環境に応じ時刻別運用計画をたてた。								